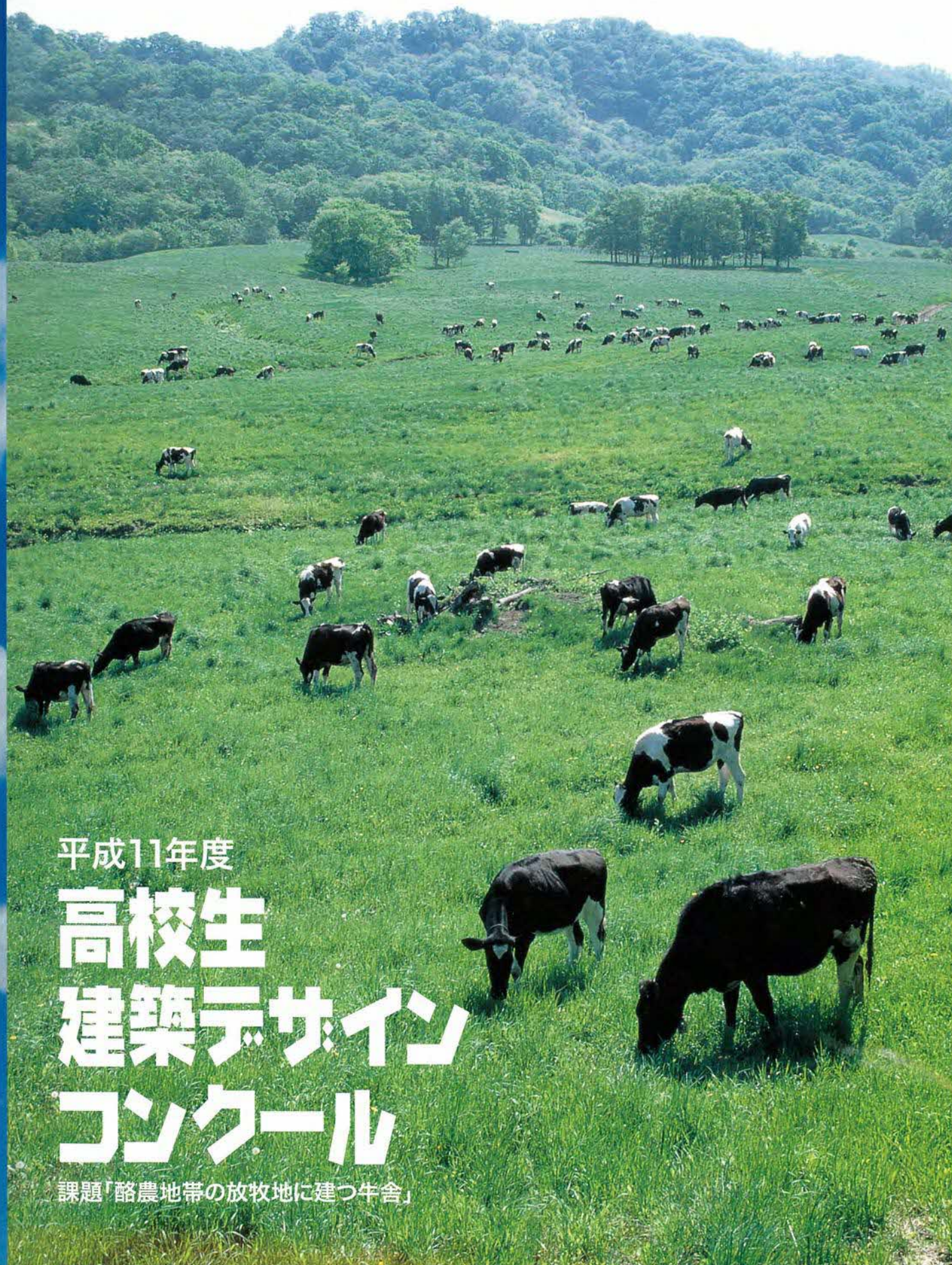


試される大地
北海道

ARCHITECTURE COMPETITION '99

平成11年度
**高校生
建築デザイン
コンクール**

課題「酪農地帯の放牧地に建つ牛舎」



高校生建築デザインコンクール

選定委員会委員長

北海道建設部建築整備室建築課長 三浦 久志

このコンクールも4回目を迎えることとなりました。

今回の課題は中標津町の北海道立根釧農業試験場内に建設が予定されている牛舎を対象とし、「酪農地帯の放牧地に建つ牛舎」というテーマを設定しました。

根釧農業試験場は私たちの生活をささえる酪農産業の総合試験研究施設として、自然の恵みを安全で良質なローコストの生産を行うための重要な施設であり、美しい白樺並木の風景で親しまれる地域のシンボルとなっています。

今回建設される牛舎には、「土地は草木を育て、草木は牛を育て、牛は美味しい乳を生み出す」というように、草木・牛などの生物への環境と道内外から多くの人々が訪れる道東酪農地帯の良質で安全な北海道ブランドとしてのイメージを大切にしたい提案が求められました。

公募の結果、道内の工業高等学校12校から、昨年度を大きく上回る142点もの多数の作品が寄せられました。これは、公共建築への関心の高さと、このコンクールが着実に定着してきたあらわれと、関係者の1人として大変喜ばしく思っています。

選定委員会は、10月18日、19日の2日間にわたり①北海道の酪農地帯についてのイメージを反映させているか。②課題である「酪農地帯の放牧地に建つ牛舎」の主旨を踏まえているか。③高校生らしい若々しさとユニークさにあふれているか。④外観のデザインに魅力があるか。⑤実施設計に反映させ得るデザイン要素や提案が含まれているか。をポイントに、各委員が投票と意見交換を重ね、慎重かつ厳正に審査し、最優秀作品賞1点、優秀作品賞3点、佳作4点、特別奨励賞8点を選定しました。

最優秀作品賞の佐藤心一君の作品は、小高い丘をイメージした設計が、北海道の雄大な自然と調和し、樹木をイメージした外壁色など、ノスタルジーを感じさせる温かみとぬくもりが、シンプルでいて柔らかく、自然な採光と換気口を設けるなど機能面でも十分配慮された作品と高い評価を得ました。

優秀作品賞の竹内尚樹君の作品は、屋根の開口部、ベランダ風トラスなどを大きくとり、丸太による通路を設けるなど自然にとけ込める設計で開放感を大切にしたい点が、評価されました。

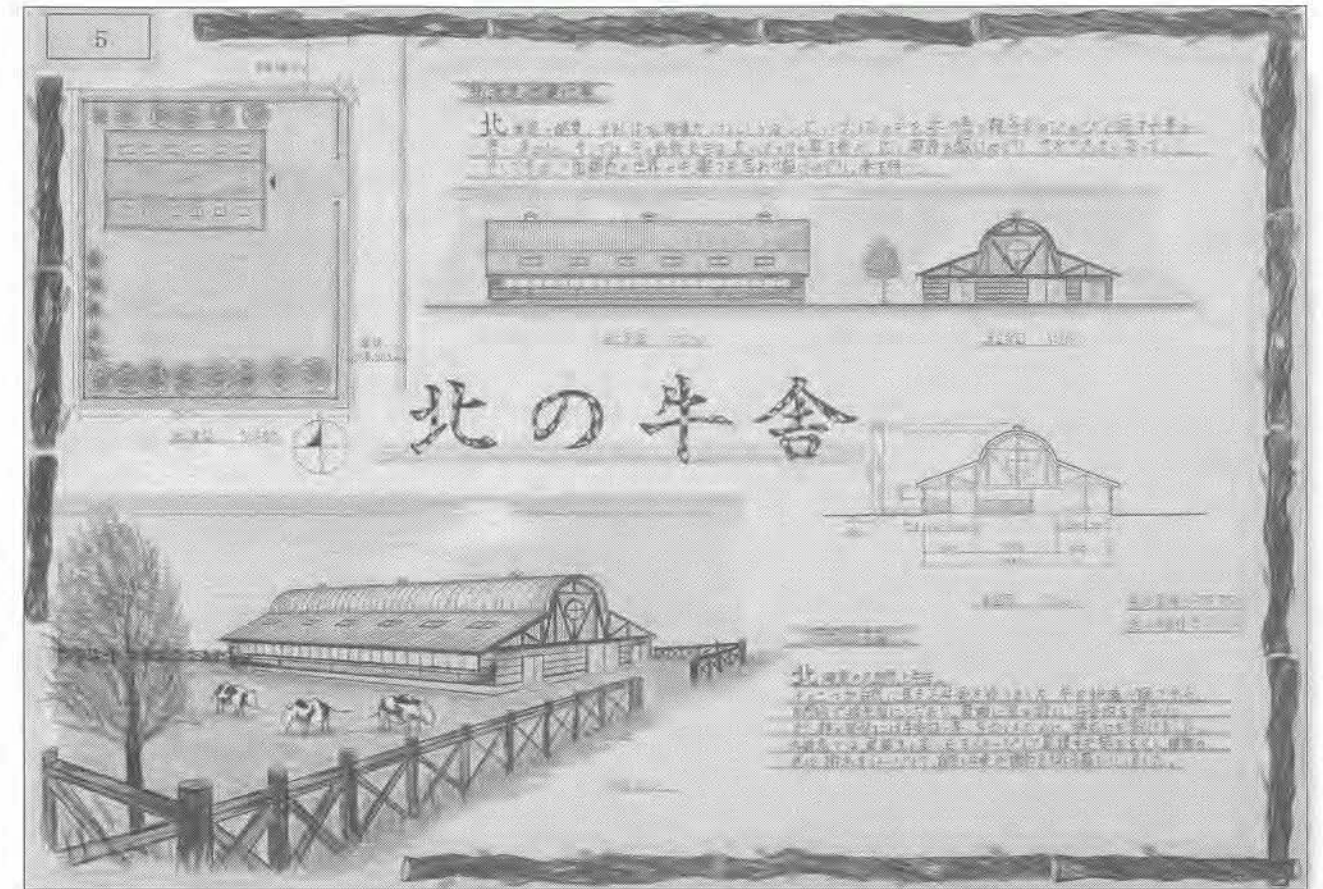
優秀作品賞の鈴木美智子さんと高橋りえさんのグループ作品は、なだらかな曲線による屋根で、タンチョウ鶴が群で大空を羽ばたいている風景をデザインしたもので、壮大な自然の中に優雅に舞うタンチョウ鶴の表現が見事にされています。

優秀作品賞の稲田綾可さんの作品は、屋根に並ぶ防風林をイメージした塔が印象的な、「風」を感じるユニークな作品です。換気機能も考えられ、風力発電にも対応の可能性があるなど、色による四季の表現とともに高い評価を得ました。

このほか、佳作や惜しくも入賞を逸した作品の中にも、見るべきアイデアや提案があり、当初予定していた各賞のほか、選定委員会において特に努力や工夫が見られた作品8点に特別奨励賞を贈ることとしました。

今年の傾向としては全体として、「木」や「鳥」などによる自然をモチーフにした表現が多く見られました。

今回の審査を通じ、建築を志す者の熱意と可能性に触発されるとともに北海道の建築デザインの水準のさらなる向上を強く感じました。



デザイン主旨

北海道の大自然と牛舎。

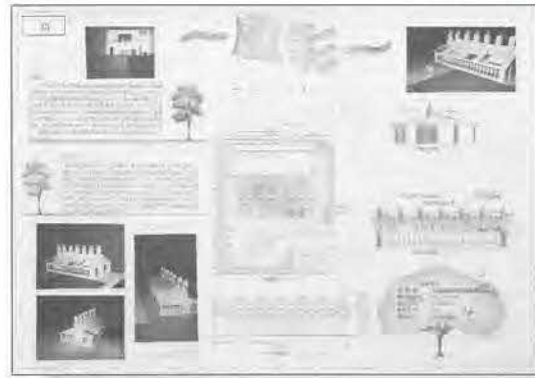
その二つが自然に見える牛舎を作りました。牛が快適に過ごせる自然的で採光面にこだわり、屋根に窓を設け、牛舎内を明るくし、また、棟の部分には牛舎内の臭いをなくすために、換気口を設けました。外観面では、屋根を小高い丘をイメージして屋根中央部を丸くし、建物の色は樹木をイメージして、自然と牛舎が調和をとれる感じにしました。

北海道の酪農地帯に対するイメージ

北海道の酪農、それは、北海道だけにしかない広い大地の中を、牛や馬の親子がのびのびと過す光景が思い浮かぶ。そこでは、その動物たちは、広い大地の草を食べ広い草原を駆けめぐり、やがて大きくなっていく。そして冬は、一面銀色の世界の中、寒さを忘れて駆けめぐり、春を待つ。

佐藤 心一

留萌千望高等学校 3年



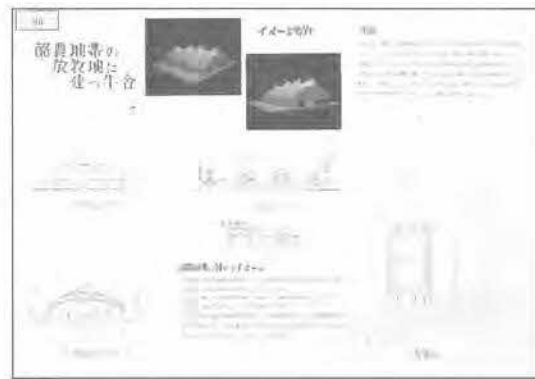
稲田 綾可
函館工業高等学校 3年

デザイン主旨

この牛舎の特長は防風林をふきぬけるかぜと四季折々に華麗な変化を見せる自然の色を屋根の上だけで表したところ。空へのびる数個の塔は防風林をイメージし、その中で風で上下に揺れる羽は、防風林に吹きつける風をイメージしています。屋根の部分は凹凸をつけ、その段差の側面に開口部を設け、空気の入れ換え口としています。色は自然の中で移り変わる季節の色を、まるで草原の大きなパッチワークのように屋根を彩っています。釧路のきれいな風と四季の移り変わりを存分に牛舎で表した作品です。

北海道の酪農地帯に対するイメージ

眼下に広がる広々とした草原、果てしなく続く真っさらな青空。透きとおったすがすがしい風に静かにゆれる防風林。遠くに見えるまるい地平線。草木の緑と茶のコントラスト、空の青、雲の白は大自然の壮さを毎日あたり前のように表しているように思います。一年間を通し、四季折々の色のグラデーション。それは緑から黄色、黄色から白へとつり変わり、北海道の大地をいっぱいと感じられるでしょう。そしてそれは、北海道の草原、酪農地帯の原点とも言えると私は思います。



鈴木 美智子・高橋 りえ
北見工業高等学校 3年

デザイン主旨

私達は、根釧台地を釧路湿原に見立て、豊かな自然と共存している生物達をイメージしました。壮大な自然の中でタンチョウ鶴が、群で天空を羽ばたいている風景をデザインしたものです。それぞれ四季の移り変わりを側面部分に窓として表しました。また、優雅に舞っているタンチョウ鶴をなだらかな曲線を用いて、屋根として構成しました。自然の中を生きるタンチョウ鶴のように、牛も大自然の中でのびのびと生きてほしいという願いを込めて、設計しました。

北海道の酪農地帯に対するイメージ

私達が北海道の酪農地帯と聞くと、壮大な自然に囲まれた牛舎と何軒かの民家がぼつぼつとある風景をまず最初にイメージします。北海道は夏と冬の変化の差が激しい地域です。夏は猛暑が続き、冬は氷点下の世界が数ヶ月続く中でも、牛はのびのび生きています。21世紀を目前にし確実に近代化していく現代社会の中でも、北海道の酪農地帯だけは変わらず、1年を通しさまざまな姿を見せる壮大な自然に、なぜか心が落ち着くようなそんな所であってほしいと私達は思います。

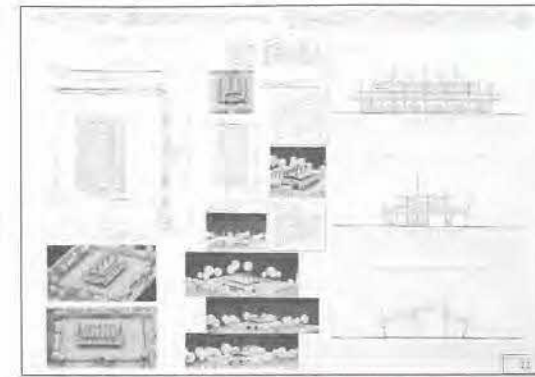
デザイン主旨

換気を十分に行えるように北側屋根に開口部、南側にはトラスを設けベランダ風に設計し、外部との接触面積を大きくしました。またそのことにより開放感をだし、自然にとけこめるような構造にしてみました。周囲の環境の面でも、丸太による通路を作り、自然の雰囲気を出しました。根釧台地にある北方原生花園では、ミズバショウ、ヒオウギアヤメなどが植えられています。そこで花壇を設置し、その様な植物を植えられるようにしました。

北海道の酪農地帯に対するイメージ

ビルなどの高い壁にはさまれた生活と違い、視野をさえぎるものがないので遠くの山なみを見渡すことができる。太陽の光を享受し、暖かい感じをうける。牛の鷹揚な様子や緑色の草原から見られるように閑静でなごやかなイメージが浮かぶ。牛舎という空間や、欄にとじこめられているというよりは、草原を気ままに行動し、自由な感じがする。

竹内 尚樹
帯広工業高等学校 3年



デザイン主旨

広大な大地のいたるところに防風林が点在している景観を考慮して、防風林をモチーフに牛舎の外観を考えました。出来るだけ自然の姿に近づけるように、丸太を多用し、木のぬくもりを持たせ、緑の屋根を葉にみたくて、デザインしました。

北海道の酪農地帯に対するイメージ

どこまでも続く広大な大地に牛たちがのびりと草を食べている。大規模な牛舎やサイロが点在する日本離れした景観を醸し出している。その反面厳しい環境（気候、社会情勢など）とたたかひながら現在に至っている。日本の食糧自給率は40%不足、近い将来最も重要な役割を担うに違いないと思いますので、是非頑張ってください。

春日 智貴・伊藤 有貴
美唄工業高等学校 2年



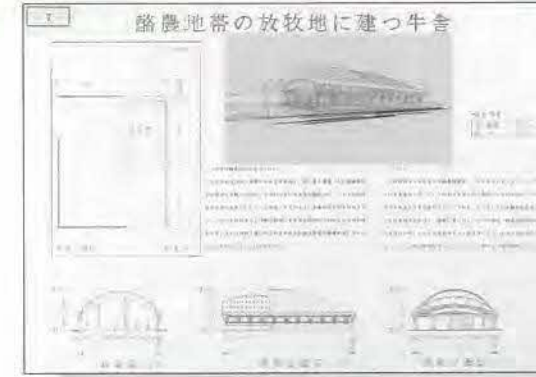
デザイン主旨

釧路地方ですが雪が降るということを前提に三角屋根にしました。木造平家建なのでオーソドックスなタイプだと、あまり、個性を強調できないので、自分なりに屋根の形を工夫してみました。牛舎の臭気対策として天井を少し高めにし、換気を良くしました。又、乳牛に安心感を与える為、配色に気をつけました。

北海道の酪農地帯に対するイメージ

私にとって酪農地帯は、すごく身近なものなので、昔から知っているなつかしい感じがします。広大な草原に多くさんの牛や羊たちが住み、そこでは時間でさえもゆったりとしているように思えます。だから酪農地帯は、心をリラックスさせる大切な場所だと考えています。

竹市 有佑
札幌工業高等学校 3年



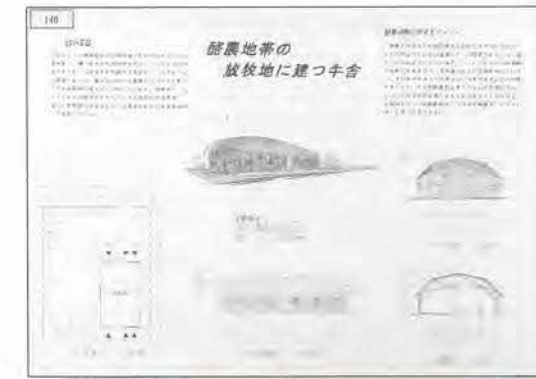
デザイン主旨

今回設計する事になった酪農地帯は、「のどかさ」をイメージし、デザインする事にしました。その中で牛舎と牛に関係するものと考え、牛のえさでもあるとうきびをデザインしてみました。たくさん太陽の光を浴びて、広大な大地で元気に、健康に育つとうきび牛舎は、酪農地帯の雄大さに負けない位、人々に元気を与えてくれるでしょう。みなさんに親しまれる、シンボリックな建物になってほしいという願いをこめて設計しました。

北海道の酪農地帯に対するイメージ

なだらかな起伏・草原に広がる牧草地と、短い夏と猛暑・長い厳寒期の冬が両立する厳しい気候。この長い長い冬を乗り越えたら、たくさん仔牛が草地で昼寝をしたり、元気に走り回っている春ののどかさがあります。しかし森林伐採などで野生動物の暮らせる場所が失われているのも現状です。そんな地域と違いのどかさのある北海道特有の酪農地帯。これから先も大切にしようと思えます。

山道 まり子
北見工業高等学校 3年



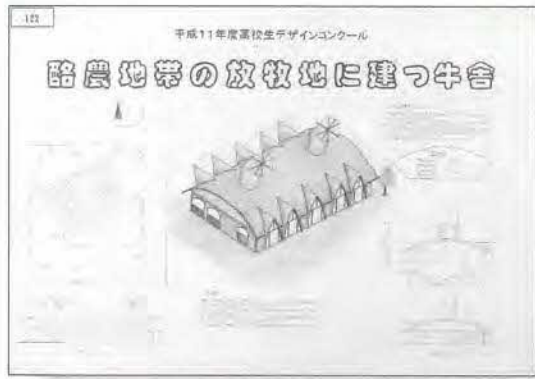
デザイン主旨

私にとって根釧台地とは霧が多い広大な大地という印象があり、霧に包まれた木が数本立つというイメージがありました。これを牛舎全体を二本の木というデザインに表現しました。霧が出た時には建物がうっすらと見えとても幻想的に見えたと予想しています。屋根はうっそうとした木の葉のかたままり→広大な根釧台地を表現し、温かく生物達を包み込むという意味を丸みのある屋根として設計しました。

北海道の酪農地帯に対するイメージ

酪農とは広大な大地と豊かな自然の中で行うもので、これらが揃っている北海道に合った産業であり、切り離すことは出来ないと思います。しかし牛などの生物を扱う仕事でもあるので、まだ霧の出ている早朝から夕刻まで、また畜舎の中でも冬場は辛い仕事であるという印象があります。ですが酪農を仕事とする人が大勢いるということは魅力的な仕事であるとも考えることもできます。北海道のイメージの表看板の一つである酪農がこれからも続くといいと思います。

山田 大輔
北見工業高等学校 3年



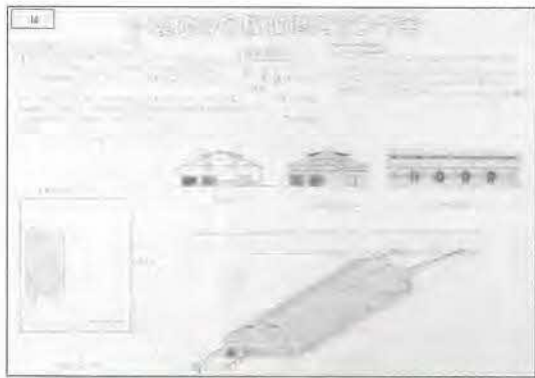
デザイン主旨

建物のデザインは、フクロウの群れが並んで立っているイメージにし、二枚の風車は、広大な大地にそびえ立つ木をイメージして設計しました。全体のデザインとしては、広大な自然溢れる緑の大地にゆとりを持たせるため、丸みをおびた建物となっています。
自然が与えてくれる風力エネルギーを使って、建物内の電力の供給と換気の役割が一緒にできる風車もエコロジーのために取り付けました。街中の建物と違って自然になじむように集成材を多く取り付けているのが特徴です。

北海道の酪農地帯に対するイメージ

酪農地帯のイメージと言えば、農村地域特有の澄んだ空気や緑豊かな大地、そして憩いと安らぎに満ちた地域を思い出します。
特に私達の住む北海道では、四季それぞれに特徴がありますが、半年近く続く冬期間朝早く起床して動物を相手にして働くのはとても大変だと思います。
さらに若年労働者の減少や国際化の波に押されて酪農家の人達の仕事は一層大変だと思われがちですが、広大な自然を相手に自分や家族の力で育てるという事は私達には分からない充実感があると思います。
また、酪農は職・住が一体となり素晴らしい人生が送れると思います。

茂野 仁志
室蘭工業高等学校 3年



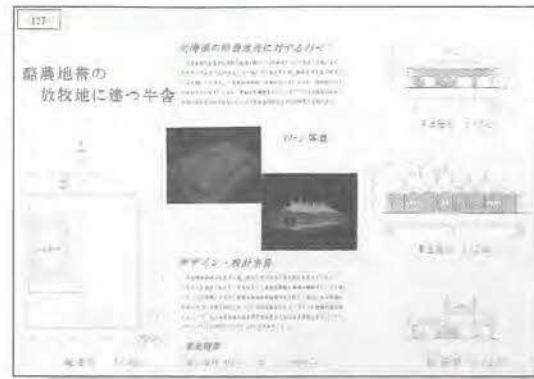
デザイン主旨

たくさんの日射しをあげるように、採光部を一定の間隔で設けた。ウキウキ、ワクワクしている「アルプスの少女ハイジ」をイメージしながら、たくさんの木を使ってかわいらしさを強調した。
春夏秋冬、どんな季節でも自然に受け入れてくれることを願った。

北海道の酪農地帯に対するイメージ

夏は大空とともに続く草原。大きな牛や馬が小さく見えるほど広がっている。やわらかい日射しをあげて、一日中幸せ。やすらぎを与えてくれる。
秋は次の年の準備をする大地。円柱になった牧草、緑の衣を茶に変え次につなごうとする。応援しよう。
冬はうっすらと白く広がる大地。見えていたものが白く見えてなくなっている。少し淋しい気分。春は新緑だらけの草原。たくさんの太陽をあげながら多くの仲間とともに自分が成長するのを待っている。ここから始まる景色にワクワクしながらウキウキしている。

加賀谷 奈未
旭川工業高等学校 3年



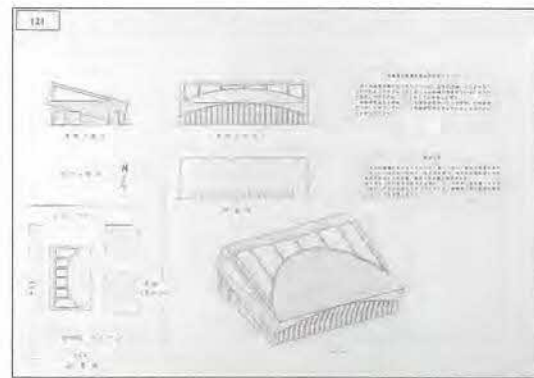
デザイン主旨

僕は根釧台地＝広大さと霧、放牧＝木々の間に見え隠れする牛というイメージをもとに設計しました。大自然という意味を屋根と突端に曲線をいくつも用いることで表現しました。屋根の突端は木の連なりを模し、中にある牛が森に放牧されている様を想定しました。
また同部分にトップライトと側面の窓を用いることで、光と風を表現し霧を吹き飛ばすような採光を意図しました。牛には外にいるような味わいにひたってもらえるでしょう。

北海道の酪農地帯に対するイメージ

日本全国でも有数の場所で酪農と聞いたら北海道という人が多いと思います。牛相手にのんびりと仕事をしているように見えますが、酪農する人達が増えていると聞いています。1年中休みのない仕事のせいでしょうか。僕の知人にもやめた人がいます。しかし、それでも酪農をずっとつづけている人達がいます。壮大に広がる大地であるからこそできる北海道ならではの酪農かと思っています。

渡邊 直哉
北見工業高等学校 3年



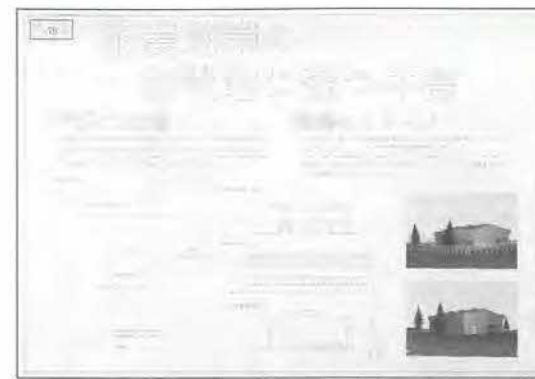
デザイン主旨

多くの酪農に対するイメージは、臭い、汚い、暗いとあまり良いイメージではなかったから、まず窓を多く取り付け、光をたくさん取り入れるような天窗、換気のため取り付けました。
ぼくのもっている牛舎に対する悪いイメージを少しでも無くすような物にしたからあのような牛には、関係無い長方形型の斜めになった牛舎を考えました。

北海道の酪農地帯に対するイメージ

多くの酪農地帯に対するイメージは、大きい土地、どこまでもつづいているようなぐらひ広くたくさんの緑に囲まれている、その中で生活している牛は、なんとなくうらやましく思う。
酪農地帯を見る時は、いつも青空が広がって牛が、その空の下でゆっくりとしていて、その場所だけ止まっているようなイメージを持っています。

大西 貴憲
名寄工業高等学校 3年



デザイン主旨

この設計は、根釧台地の広大な自然の景観にとけこめるような、シンプルなものを第一に考えました。全体の形は「箱」を基本とし、雪が降るので三角屋根をつけました。また、牛にとって快適な空間になるように、天窗と換気口を設け、外観にアクセントをつけると共に、採光・換気の機能も兼ねています。着色もシンプルにシルバーにして、清潔感のある牛舎になっています。

北海道の酪農地帯に対するイメージ

地平線が見え、青々とした緑が見わたす限り続いていて、そんな広大な草原の中で、牛たちがのびのびと生活している。これが私の北海道の酪農地帯に対するイメージです。牛舎で働く人は毎日朝早くから牛の世話をして、つらい仕事が多いと思います。でも私たちが毎朝おいしい牛乳を飲むのは、その人たちのおかげです。
だから私たちにとって酪農は、切っても切り離せない身近なものだと思います。

石田 将太
札幌工業高等学校 3年



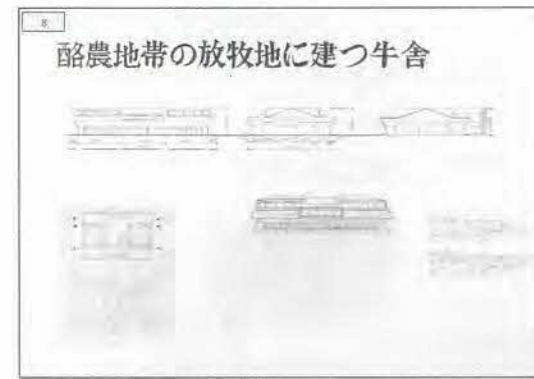
デザイン主旨

まず始めに、牛達が一頭ずつ大切だということを認識して、牛達がこの牛舎でどんな印象を受けるかを第一条件に置き、やすらぎ感と温もりを感じさせてくれる木をたくさん使用することにより、木独特の印象を取り入れようと思いました。そして、壁の模様は従来のどこにもある牛舎のような、縦や横にただ板を張るのではなく工夫をしてみようと考え、あと、牛の模様をユニークかつ斬新的な形で表現する場所を壁とは別に何か作ろうと考えました。

北海道の酪農地帯に対するイメージ

澄みきった青空と草の香りがする風が吹き、そして、地平線まで続く広大な草原に放たれた、白と黒の体のとても大きい牛達が草原を美しく飾り、まるで一枚の絵画のような印象を与えてくれる。
そしてそこには、北海道でも失いかけている自然がたくさんあり、牛と話す動物達が後をたないくらい居て、そして、豊かな自然に育まれた牛達が動物達と一緒にまた、幾つもの違う絵画を描きだし、酪農といえば北海道という印象を与えてくれる。

柴田 和也
小樽工業高等学校 3年



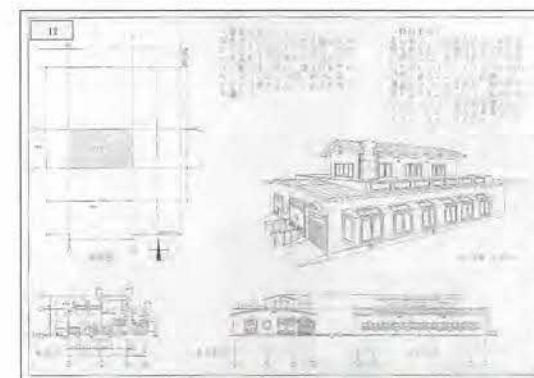
デザイン主旨

今年の夏は熱く、熱射病で死んでしまった牛がとても多かったので、天窗をもうけて換気ができるようにしました。でも、牛に日が直接当たってしまうので、牛床の上に屋根のようなものをもうけて、少しでも涼しくなるようにデザインしました。

北海道の酪農地帯に対するイメージ

私の祖父母が10年ほど前まで、酪農をやっていました。祖父母の家のまわりには、とても自然がいっぱいで、とても良いイメージがあります。毎年、酪農をする人が減っていますが、自然を残しておくためにも、続けてほしいと思います。

福原 由比乃
釧路工業高等学校 3年



デザイン主旨

家の中に、できるだけ多くの光が得られるように設計しました。
特に南側には、牛がいるので、天井にも窓をつけて、より多くの日光が得られるようにし、北側には、通風などのことを考え、開口部を多く取りました。ロフトを設けることによって、開口部を増やし、そこに、かいぐさなどが保管できるスペースを取りました。

北海道の酪農地帯に対するイメージ

草原が果てなく広がる緑の大地。どこまでも澄みきった青空。大地の恵みを十分に受けて牛達がすくすく育つその姿は、雄大な自然の中にとけこみ、一瞬、時が止まったかの印象を与える。北の大地に感謝して。

和泉 達也
苫小牧工業高等学校 3年



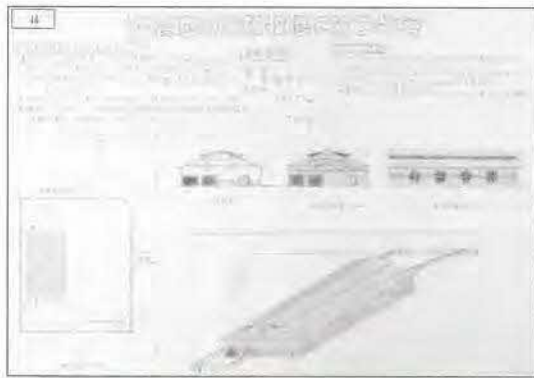
デザイン主旨

建物のデザインは、フクロウの群れが並んで立っているイメージにし、二枚の風車は、広大な大地にそびえ立つ木をイメージして設計しました。全体のデザインとしては、広大な自然溢れる緑の大地にゆとりを持たせるため、丸みをおびた建物となっています。自然が与えてくれる風力エネルギーを使って、建物内の電力の供給と換気の役割が一緒にできる風車もエコロジーのために取り付けました。街中の建物と違って自然になじむように集成材を多く取り付けているのが特徴です。

北海道の酪農地帯に対するイメージ

酪農地帯のイメージと言えば、農村地域特有の澄んだ空気や緑豊かな大地、そして憩いと安らぎに満ちた地域を思い出します。特に私達の住む北海道では、四季それぞれに特徴がありますが、半年近く続く冬期間朝早く起床して動物を相手にして働くのはとても大変だと思います。さらに若年労働者の減少や国際化の波に押されて酪農家の人達の仕事は一層大変だと思われそうですが、広大な自然を相手に自分や家族の力などで育てるという事は私達には分からない充実感があると思います。また、酪農は職・住が一体となり素晴らしい人生が送れると思います。

茂野 仁志
室蘭工業高等学校 3年



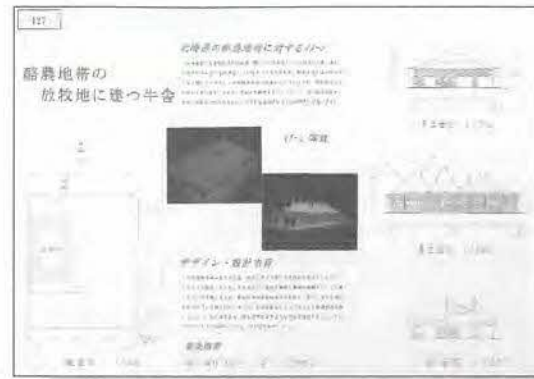
デザイン主旨

たくさんの日射しをあげるように、採光部を一定の間隔で設けた。ウキウキ、ワクワクしている「アルプスの少女ハイジ」をイメージしながら、たくさんの木を使ってかわいらしさを強調した。春夏秋冬、どんな季節でも自然とけこんでくれることを願った。

北海道の酪農地帯に対するイメージ

夏は大空とともに続く草原。大きな牛や馬が小さく見えるほど広がっている。やわらかい日射しをあげて、一日中幸せ。やすらぎを与えてくれる。秋は次の年の準備をする大地。円柱になった牧草、緑の衣を茶に変え次につなごうとする。応援しよう。冬はうっすらと白く広がる大地。見えていたものが白い中に見えなくなっている。少し淋しい気分。春は新緑だらけの草原。たくさんの太陽をあげながら多くの仲間とともに自分が成長するのを待っている。ここから始まる景色にワクワクしながらウキウキしている。

加賀谷 奈未
旭川工業高等学校 3年



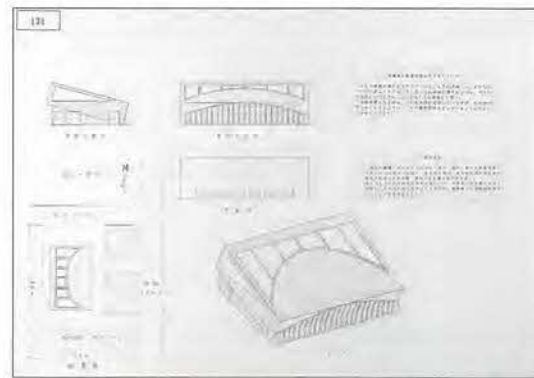
デザイン主旨

僕は根柢台地＝広大さと霧、放牧＝木々の間に見え隠れる牛というイメージをもとに設計しました。大自然という意味を屋根と突端に曲線をいくつも用いることで表現しました。屋根の突端は木の連なりを模し、中にある牛が森に放牧されている様を想定しました。また同部分にトップライトと側面の窓を用いることで、光と風を表現し霧を吹き飛ばすような採光を意図しました。牛には外にいるような味わいにひたってもらえるでしょう。

北海道の酪農地帯に対するイメージ

日本全国でも有数の場所で酪農と聞いたら北海道という人が多いと思います。牛相手にのんびりと仕事をしているように見えますが、酪農する人達が増えていると聞いています。1年中休みのない仕事のせいでしょうか。僕の知人にもやめた人がいます。しかし、それでも酪農をずっとつづけている人達もいます。壮大に広がる大地であるからこそできる北海道ならではの酪農かと思っています。

渡邊 直哉
北見工業高等学校 3年



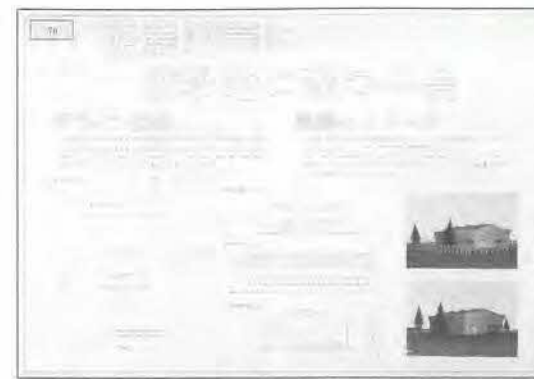
デザイン主旨

多くの酪農に対するイメージは、臭い、汚い、暗いとあまり良いイメージではなかったから、まず窓を多く取り付け、光をたくさん取り入れるような天窗、換気のため取り付けました。ぼくのもっている牛舎に対する悪いイメージを少しでも無くすような物にしたからあのような牛には、関係無い長方形型の斜めになった牛舎を考えました。

北海道の酪農地帯に対するイメージ

多くの酪農地帯に対するイメージは、大きい土地、どこまでもつづいているようなぐらいたくさんの緑に囲まれている、その中で生活している牛は、なんとなくうらやましく思う。酪農地帯を見る時は、いつも青空が広がっていて牛が、その空の下でゆっくりとしていて、その場所だけ止まっているようなイメージを持っています。

大西 貴憲
名寄工業高等学校 3年



デザイン主旨

この設計は、根柢台地の広大な自然の景観にとけこめるような、シンプルなものに第一に考えました。全体の形は「箱」を基本とし、雪が降るので三角屋根をつけました。また、牛にとって快適な空間になるように、天窗と換気口を設け、外観にアクセントをつけると共に、採光・換気の機能も兼ねています。着色もシンプルにシルバーにして、清潔感のある牛舎になっています。

北海道の酪農地帯に対するイメージ

地平線が見え、青々とした緑が見わたす限り続いていて、そんな広大な草原の中で、牛たちがのびのびと生活している。これが私の北海道の酪農地帯に対するイメージです。牛舎で働く人は毎日朝早くから牛の世話をして、つらい仕事が多いと思います。でも私たちが毎朝おいしい牛乳を飲むのは、その人たちのおかげです。だから私達たちにとって酪農は、切っても切り離せない身近なものだと思います。

石田 将太
札幌工業高等学校 3年



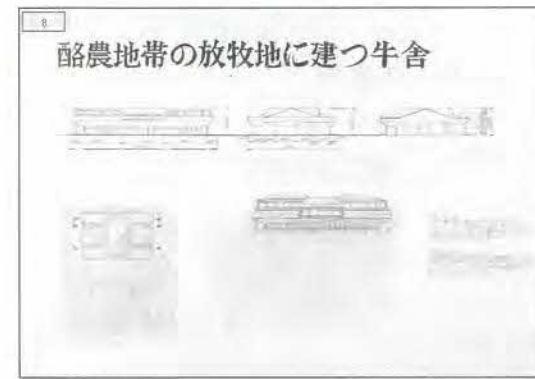
デザイン主旨

まず始めに、牛舎が頭づつ大切だということを認識して、牛舎がこの牛舎でどんな印象を受けるかを第一条件に置き、やすらぎ感と温もりを感じさせてくれる木をたくさん使用することにより、木独特の印象を取り入れようと思いました。そして、壁の模様は従来のどこにでもある牛舎のような、縦や横にただ板を張るのではなく工夫をしてみようと考え、あと、牛の模様をユニークかつ斬新的な形で表現する場所を壁とは別に何か作ろうと考えました。

北海道の酪農地帯に対するイメージ

澄みきった青空と草の香りがする風が吹き、そして、地平線まで続く広大な草原に放たれた、白と黒の体のとても大きい牛達が草原を美しく飾り、まるで一枚の絵画のような印象を与えてくれる。そしてそこには、北海道でも失いかけている自然がたくさんあり、牛と話す動物達が後をたないくらい居て、そして、豊かな自然に育まれた牛達が動物達と一緒にまた、幾つもの違う絵画を描きだし、酪農といえば北海道という印象を与えてくれる。

柴田 和也
小樽工業高等学校 3年



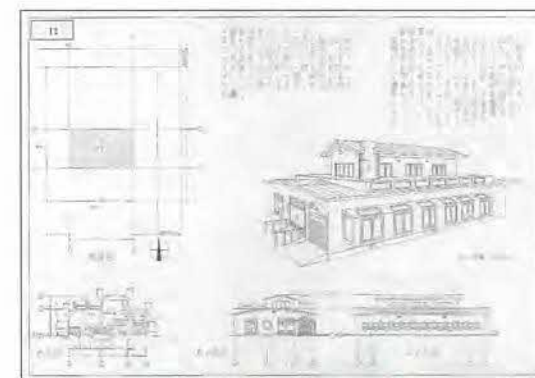
デザイン主旨

今年の夏は熱く、熱射病で死んでしまった牛がとても多かったので、天窗をもうけて換気をできるようにしました。でも、牛に日が直接当たってしまうので、牛床の上に屋根のようなものをもうけて、少しでも涼しくなるようにデザインしました。

北海道の酪農地帯に対するイメージ

私の祖父母が10年ほど前まで、酪農をやっていました。祖父母の家のまわりには、とても自然がいっぱいで、とても良いイメージがあります。毎年、酪農をする人が減っていますが、自然を残しておくためにも、続けてほしいと思います。

福原 由比乃
釧路工業高等学校 3年



デザイン主旨

家の中に、できるだけ多くの光が得られるように設計しました。特に南側には、牛がいるので、天井にも窓をつけて、より多くの日光が得られるようにし、北側には、通風などのことを考え、開口部を多く取りました。ロフトを設けることによって、開口部を増やし、そこに、かいぐさなどが保管できるスペースを取りました。

北海道の酪農地帯に対するイメージ

草原が果てなく広がる緑の大地。どこまでも澄みきった青空。大地の恵みを十分に受けて牛達がすくすく育つその姿は、雄大な自然の中にとけこみ、一瞬、時が止まったかの印象を与える。北の大地に感謝して。

和泉 達也
苫小牧工業高等学校 3年

平成11年度高校生建築デザインコンクール応募者一覧

- 《札幌工業高等学校》(20作品 20名)
 ○芦原 博美(3年)
 ○阪東 和範(3年)
 ○川崎 雄太(3年)
 ○丸山 梨名(3年)
 ○又地 英昭(3年)
 ○星 芳裕(3年)
 ○花田 俊幸(3年)
 ○富樫 弥生(3年)
 ○則内 ひとみ(3年)
 ○田島 健吾(3年)
 ○金子 真司(3年)
 ○石田 将太(3年) 【特別奨励賞】
 ○深川 みさき(3年)
 ○浜地 宏一(3年)
 ○仲村 勇介(3年)
 ○竹市 有佑(3年) 【佳作】
 ○是川 悟(3年)
 ○北間 一長(3年)
 ○阿部 利浩(3年)
 ○伊藤 有一(3年)
- 《函館工業高等学校》(9作品 9名)
 ○鴨田 真幸(3年)
 ○井上 数也(3年)
 ○萱野 長俊(3年)
 ○稲田 綾可(3年) 【優秀作品賞】
 ○山村 肇(3年)
 ○山村 裕也(3年)
 ○嶋田 真奈美(3年)
 ○田中 政輝(3年)
 ○吉崎 雄介(3年)
- 《小樽工業高等学校》(4作品 4名)
 ○野中 あゆみ(3年)
 ○真貝 郁美(3年)
 ○小網 英介(3年)
 ○柴田 和也(3年) 【特別奨励賞】
- 《美唄工業高等学校》(1作品 2名)
 ○春日 智貴(2年) 【佳作】
 伊藤 有貴(2年) (2名グループ)
- 《旭川工業高等学校》(7作品 7名)
 ○尾形 郁恵(3年)
 ○加賀谷 奈未(3年) 【特別奨励賞】
 ○狩野 勉(3年)
 ○黒松 秀幸(3年)
 ○高島 淳子(3年)
 ○田中 静香(3年)
 ○平田 奈緒美(3年)
- 《名寄工業高等学校》(27作品 27名)
 ○中村 誠(3年)
 ○北市 亜理(3年)
 ○矢野 裕樹(3年)
 ○小下 恭子(3年)
 ○北 祐樹(3年)
 ○渋谷 亮太(3年)
 ○菊地 祐平(3年)
 ○阿部 誠(3年)
 ○松田 太郎(3年)
 ○今野 亘(3年)
 ○三浦 圭介(3年)
 ○高橋 いつみ(3年)
 ○野崎 里美(3年)
 ○岡本 純子(3年)
 ○橋本 剛史(3年)
 ○飛弾野 弘和(3年)
 ○栗原 巧(3年)
 ○浜田 孝幸(3年)
 ○徳増 秀太(3年)
 ○大西 貴憲(3年) 【特別奨励賞】
 ○植松 貴徳(3年)
 ○米田 正幸(3年)
 ○中村 和公(3年)
 ○太田 隆志(3年)
 ○北沢 保徳(3年)
 ○夏坂 和貴(3年)
 ○長谷川 高之(3年)
- 《北見工業高等学校》(4作品 5名)
 ○渡邊 直哉(3年) 【特別奨励賞】
 ○山道 まり子(3年) 【佳作】
 ○鈴木 美智子(3年) 【優秀作品賞】
 高橋 りえ(3年) (2名グループ)
 ○山田 大輔(3年) 【佳作】
- 《釧路工業高等学校》(38作品 38名)
 ○海津 正利(3年)
 ○目黒 吉朗(3年)
 ○小倉 一仁(3年)
 ○小林 尚喜(3年)
 ○木村 俊介(3年)
 ○及川 晴久(3年)
 ○新敷 政人(3年)
 ○菊池 清仁(3年)
 ○藤本 浩克(3年)
 ○赤坂 祐也(3年) 【特別奨励賞】
 ○福原 由比乃(3年) 【特別奨励賞】
 ○松尾 一清(3年)
 ○房田 信也(3年)
 ○岩本 弥生(3年)
 ○木嶋 力穂(3年)
 ○中村 訓(3年)
 ○中道 大樹(3年)
 ○吉崎 将宏(3年)
 ○金子 亘弘(3年)
 ○佐藤 司(3年)
 ○澤谷 奈々(3年)
 ○斉藤 創(3年)
 ○芦崎 雄一(3年)
 ○大石 博樹(3年)
 ○山口 恭平(3年)
 ○平間 啓太(3年)
 ○中橋 ゆい子(3年)
 ○秋葉 一真(3年)
 ○野沢 則幸(3年)
 ○西崎 勉(3年)
 ○高田 希美子(3年)
 ○梶谷 篤史(3年)
 ○真籠 英輔(3年)
 ○林 宏典(3年)
 ○吉田 祥一(3年)
 ○前川 あやの(3年)
 ○森下 邦満(3年)
 ○坂本 麻衣(3年)

高校別応募作品数一覧

高校名	H11応募作品数
札幌工業高等学校	20
函館工業高等学校	9
小樽工業高等学校	4
美唄工業高等学校	1
旭川工業高等学校	7
名寄工業高等学校	27
北見工業高等学校	4
釧路工業高等学校	38
帯広工業高等学校	6
室蘭工業高等学校	7
苫小牧工業高等学校	11
留萌千望高等学校	8
計	142

- 《帯広工業高等学校》(6作品 6名)
 ○木戸 浩太(3年)
 ○道見 美久(3年)
 ○濱田 佳香(3年)
 ○宇井 空(3年)
 ○竹内 尚樹(3年) 【優秀作品賞】
 ○土井 啓志(3年)
- 《室蘭工業高等学校》(7作品 7名)
 ○和歌山 学(2年)
 ○山鹿 かずえ(3年)
 ○北館 浩司(3年)
 ○茂野 仁志(3年) 【特別奨励賞】
 ○諏訪 文昭(3年)
 ○合田 直弥(3年)
 ○大塚 嘉文(3年)
- 《苫小牧工業高等学校》(11作品 11名)
 ○和泉 達也(3年) 【特別奨励賞】
 ○能登谷 司(3年)
 ○寺崎 未来(3年)
 ○金澤 なつみ(3年)
 ○本川 亮介(3年)
 ○荒井 真紀(3年)
 ○小松 尚樹(3年)
 ○堀田 和意(3年)
 ○高田 慎二(3年)
 ○今野 英恵(3年)
 ○鈴木 千尋(3年)
- 《留萌千望高等学校》(8作品 8名)
 ○八幡 幸男(3年)
 ○對馬 慎一(3年)
 ○工藤 友道(3年)
 ○佐藤 心一(3年) 【最優秀作品賞】
 ○太田 美智子(3年)
 ○高田 透(3年)
 ○祐川 純一(3年)
 ○佐藤 美保(3年)

計 142作品 144名

発行 北海道建設部建築整備室計画調整課
 札幌市中央区北3条西7丁目
 TEL 011-231-4111 内線 29-863
 印刷 (株)大成社 北辰印刷
 平成12年2月発行